

## 第195回東葛しぜん観察会

### 夕涼み観察会 ホタル・コウモリ・星・・・

林 眞司（取手市）

日 時：2024年7月20日（土）17時～20時 天気：晴れ

場 所：大畔の森（流山市）

参加者：大人14人、子ども6人、指導員14人（担当 木村将、河野、渋谷、林眞）

今回の観察会は「里山ボランティア流山」との共催で行われました。大畔の森は流山市立おおぐろの森中学校と千葉県立流山おおたかの森高校の間にある湧水が斜面林に囲まれた公園です。市から委託を受けた「里山ボランティア流山」の会員の方が、月に2回、下草刈り、樹木の伐採などの里山の維持管理を行っています。今回はこの大畔の森で夕暮れの里山の観察会を実施しました。

当日は天気がよく、とても暑い日でした。しかし、夕立の心配があり、実施するかどうかについては非常に悩ましい判断をすることになりました。参加者には夕立で途中中止することがあることを確認したうえで、集合してもらうことにしました。今回は17時に流山市初石公民館へ集合、30分間座学として河野さんからホタルの話、渋谷さんからコウモリの話、林は星の話、木村から諸注意を行ってから、班に分かれて大畔の森へ移動をしました。途中の道すがらブラタモリよろしく、微地形を観察してもらいながら大畔の森入り口まで歩いていきました。大畔の森の入り口ではニイニイゼミの鳴き声が聞こえ、これから夕方になるとヒグラシに代わっていきますとセミの鳴き声に注目してもらいました。たまたま、猛禽類の鳴き声が聞こえ、飛んでいく姿からサシバと確認できました。また、地形は信号機のあたりが分水嶺となり、これからいく大畔の森の湧水は江戸川へ、東側は手賀沼へそれぞれ流れしていくことを確認し、いよいよ大畔の森に入ります。最初の池でここは下総台地の湧水であることやフトイ、ガマなどを観察しました。小中学生がいたのでガマでは因幡の白兎の話などをしながら、奥へ進んでいきます。途中にもう1つの湧水を見ながら、こうした水が集まって江戸川、そして海に流れしていくことを話しました。田んぼにつくとたまたま参加していた地元の小学生が田植えをしたことを話してくれ、ずいぶんと大きく育っていることを確認し、田んぼのわきではサギソウを観察し、夕食場所移動しました。夕食場所ではオオシオカラトンボやオニヤンマ、ギンヤンマが飛び交い、草の中にはたくさんのバッタがあり、参加した子どもたちが大興奮していました。だんだん夕暮れが近づいてカラスがねぐらに帰り、ツバメが飛び交う中、コウモリや一番星を見つけようと空を見ながらの食事となりました。ところが、食事のころから涼しい風が吹き始め、雲が広がり、コウモリも今日はお休み模様、一番星も雲に隠れてしまい、見えませんでした。カラスウリの花を見に高台に向かったところ、「お月様」という小学生の声に上ってきた満月前の月がくっきりと見えました。そのころから稻光と雷鳴が聞こえ、自宅から天気をモニタリングしている長谷川さんからの情報で、早めにホタルを見に行くことになり、残念ながらコウモリと一番星を諦め池の橋まで戻るとホタルがちらほら見え始めました。「きれい！」との歓声の中、ポツポツと光るホタルが見られ、参加者も満足している様子でした。雷に追いかけて解散のように解散場所に戻り、各班の感想を確認して解散となりました。幸い帰るまで雨にも降られず参加者の皆さんも家路につき、今回の観察会は終わりました。



広場で夕暮れのお弁当タイム